



### 『わたしの全てのわたしたち』

サラ・クロッサン／著  
最果夕ヒ、金原瑞人／訳  
ハーバーコリンズ・ジャパン

結合双生児のグレースとティッピーは16歳になって生まれて初めて学校に通うことに。周囲の好奇の目や偏見にさらされながらも、親友と出会い、初めての恋を経験し、そして……。心が震える物語。



### 『動物翻訳家』 心的心声をキャッチする、飼育員のリアルストーリー』

片野ゆか／著  
集英社文庫

動物園で暮らす動物たちの幸福ってなんだろう。世界の国々からやってきた動物たちを相手に奮闘する「動物翻訳家」たちのドキュメント。この本を読んだら、動物園に行きたくなること間違いなし。



### 『むこう岸』

安田夏菜／著  
講談社

人との関わりの温かさに支えられながら、貧困という厳しい現実にも中学生がどう向き合い、光を見出すか。勉強、人間関係、家庭事情……。何かに苦しんでいる君に読んでほしい一冊。



### 『きみの存在を意識する』

梨屋アリエ／作  
ポプラ社

ディスレクシア、書字障害、養子、過敏症……困難や特徴がある中学二年生たち。大人と子どもの間で揺れる彼らが自分と他人について考える。書きっぱなしの物語の続きを、君はどう考えるだろう。



### 『美術館って、おもしろい!』 展覧会のつくりかた、働く人たち、美術館の歴史、裏も表もすべてわかる本』

モラヴィア美術館／著  
阿部賢一、須藤輝彦／訳  
河出書房新社

この本では美術館の歴史から仕事、展覧会のつくりかたまでを紹介しています。誰が、どんなことを考えて、どのような仕事を行っているのか、緻密なイラストでそのすみずみまでを紹介します!



### 『短歌タイムカプセル』

東直子、佐藤弓生、千葉聡／編著  
書肆侃侃房

5・7・5・7・7というリズムの31文字にこめられた想いが、この本にはつまっています。おみくじをひくように本をパラパラと開いて読んでみて。共感出来る一首に出会えるはず。



### 『この海を越えれば、わたしは』

ローレン・ウォーク／作  
中井はるの、中井川玲子／訳  
さ・え・ら書房

生まれてすぐに、小舟で海に流された少女、クロウ。自分がある島からきたかもしれないことを知り、海を越える。試練や謎、悪者との対決。勇敢な少女が立ち向かう、自分が何者かを探す冒険物語。



### 『リスタート』

ゴードン・コーマン／著  
千葉茂樹／訳  
あすなろ書房

ある日記憶を失い、チェースは自分のことさえ思い出せない。家族や学校の仲間たちに自分の話を聞いてみると、信じられないようなひどい話ばかり……。おれはいつだってどんな人間だったんだ?



### 『僕たちは、宇宙のことぜんぜんわからない』 この世で一番おもしろい宇宙入門』

ジョージ・チャム、ダニエル・ホワイトソン／著  
水谷淳／訳  
ダイヤモンド社

宇宙についての未解決問題をユーモアたっぷりに紹介する本。あれも、これも、宇宙はわかっていないことだらけ。だけど、わからないってわくわくする!



### 『兄の名は、ジェシカ』

ジョン・ボイン／著 原田勝／訳  
あすなろ書房

「おまえの兄さんじゃない。ほんとうは、姉さんなんだと思う」兄ジェイソンからトランスジェンダーを告白されるサム。両親にも受け入れられず、兄は家を出た。家族はどうすればいい?



### 『しくじりから学ぶ13歳からのスマホルール』

島袋コウ／著  
旬報社

スマホやネットをどんどん使いたい! SNSで人気者になりたい! なんて思っているあなたや、「気をつけろ」って言葉は聞き飽きた人にもオススメです。あるある〜と思うこと多いのでは?



### 『泣いたあとは、新しい靴をはこう。』 10代のどうでもよくない悩みに作家が言葉で向き合ってみた』

日本ペンクラブ／編  
ポプラ社

人間関係や将来など、10代の様々な悩みに寄せた作家たちのメッセージ。時に厳しい意見もありますが、それも真剣だからこそ。次の一步のための新しい靴となるような言葉に出会えるかも。